松山市タンデム自転車交流事業補助

二刀流で双海を遊びつくせ！

トライアスロンコースで サイクルCHALLENGE 双海海岸でCHALLENGE OCEAN

2025年6月22日（日） 伊予市双海町
主催：認定NPO法人タンデム自転車NONちゃん倶楽部
共催：今治ローイングクラブ　協力：伊予市
【Coパイロット】視覚7名・知的18名・身体8名・家族&介助49名　計82名
【ボランティア】陸60名（学生自転車13名）・海25名（学生ボート18名）計85名　総合計167名

Coパイロット 松下 侑生くん 20歳　母 佳世さん
（重度知的障がいを伴う自閉スペクトラム症）

今回は初の双海町でのイベントに参加させていただきました。午前中はタンデム自転車で往復6キロのコースを楽しみ、トゥクトゥクで町内周遊。みんなでお弁当をいただき、午後からは海バージョン。様々な水上アクティビティをボランティアさんたちサポートのもと、楽しませていただきました。侑生にいたっては、1人海水浴も！何度も隙を見計らって海にドボン。

軽井沢ぶりの親善大使たちの集合、新たな出逢いや（高校生のボランティアの1人と話していると、自分は早産で3ヶ月早く生まれ、超低体重児で沢山の病気を持って生まれた。その時、沢山の医療従事者に助けられて今の自分があるので、僕の夢は小児の看護師になる事だと。素敵な夢を語ってくれました。卒業してもボランティアにきて！と約束を♡）、偶然すぎるビックリな出逢い（5月に素敵なレストランと工房にお邪魔した時に出逢った甲斐さんが何年も前からNONちゃん倶楽部のボランティアさんだった）もあり、楽しい1日を過ごす事ができました。

毎回、NONちゃん倶楽部に参加する方々のとてつもないエネルギーにパワーをいただいてます！

Coパイロット 大橋 秀太くんの日記
（身体）

6月22日（日）　Nonちゃん倶楽部のイベントと僕の誕生日

今日はNONちゃん倶楽部のイベントで愛媛県の双海海岸ラン行きました。ついてすぐNonちゃんの薫ちゃんがアスタッフの可愛い咲季ちゃんを呼んでくれてまとるは最高の笑顔で写真を撮りました。イベントではまとるず車椅子おとりの三輪りるとトゥクトゥクに乗りました。ちょっとこわくてだるを乗はいつも熱射病になりやすくて暑くて、お弁当味時怖ちしてくるとずつ食べました。海に行っちょっかったです。昼からは、海に行きました。氷も食べました。それから浜辺で手作りの美味しい梅ジュースを飲みました。ボランティれから、ビーチスターに乗ってボートとかに乗りました。アさん達に助けてもらってパワンって揺れて楽しかった波が大きいのが来てパワンって揺れて楽しかった時です。海の上は日が照ってきて日焼けして左手が真っ赤になりました。

イベントの帰りに宇多津の美味しいリンドンに注文しをていた僕の「ウルトラマンオメガ」の誕生日ケーキきてりに行きました。その帰りに綾音ちゃんの家に行ッ取まをたもらいました。そして誕生日プレゼントでピグモンのTシャツ。一緒に写真も撮りました。嬉しかっ

「ウルトラマンオメガ」のケーキは生地が抹茶で上に僕は僕が選んだオメガの絵をチョコで上手に描いてくれました。帰って半分ケーキを食べました。明日の朝、残りを食べるのが楽しみです。

今日の僕の誕生日は朝から晩までずっと楽しくて、嬉しい一日でした。

パイロットボランティアの生き抜く力を見習おう

今回参加してくださったパイロットボランティアの中で3人（松田さん・楠本さん・大西さん）が、怪我や体調不良で大変だったにも関わらず、人並み以上の動きを出してくださったことに感動。何があなたをそうさせたのか？中でも一本下駄トレーニングなども取り入れている楠本さんは、心臓と頸椎。それも怪我をして1ヶ月も経っていないことに驚かされました。

そこを目標に体調を万全に整えます

県庁サイクリングクラブ　楠本 博

私は津賀さんがタンデムの活動を始めた当初から、微力ながら関わらせてもらっていますが、手伝っているというより自分自身が元気をもらいに参加させてもらっています。そう感じるのは、津賀さんの周りには活気と喜びの輪ができ、その輪に加われるからなのでしょう。

さて今回、健康だけが取り柄の私も50代半ばとなり、体調不良と事故が続き気持ちも下降気味の中、津賀さんから生き抜くことについて記事を書いてほしいとの依頼をいただき、恐れ多いと感じつつも、自身の心の整理と、何か伝えられるものがあればと恥ずかしながら書かせていただくことにしました。私は30代から40代にかけ、マラソン、トライアスロン、トレイルランニングと取り組んできましたが、5年ほど前からあった不整脈が酷くなり、日課のジョギングもままならなくなったため、綿密な検査を経て昨年10月末に3時間の心臓カテーテル焼灼術を受けました。医者からは退院後3か月間は運動禁止と言われ、早々にエントリーしていた2月9日開催の愛媛マラソンには出走可能だなと考えていました。しかし、流石に練習なしでフルに挑むのは無謀なため、2週間前からゆるゆるジョグ30kmを2回行ない、不快な不整脈もなかったため、当日は30kmまでは走ると決めて愛媛マラソンを出走。目標としていた30kmまでは何とか走り、そこからはほぼ歩きでしたがゴールすることができました。諦めなければ何とかなるものです。しかし、沿道で応援してくれていた津賀さんの前では辛そうにとぼとぼ歩く情けない姿を見せてしまったのが悔やまれます（笑）。愛媛マラソン後は暫く調子が上がらず運動を控えていましたが、そろそろジョギングを始めて運動習慣を取り戻そうと思っていた矢先の5月末、仕事帰りに自転車で転倒し病院へ救急搬送され、頸髄損傷により即入院。医師からは両上肢に後遺症が残ると言われ、最低2か月は入院が必要と言われました。家族はショックを受けていましたが、当の本人は、指先に感覚はあるのだから、少しでも動かせるのであれば何とかなると楽観的でした。実は入院してから2日後の6月1日、事故で入院していることを知らない津賀さんから、6月20日に予定している双海のイベントを手伝えないかとショートメールが入り、状況的に断るのが普通なのでしょうが、なぜかこれを目標に回復しようと思い、「頑張ります。そこを目標に体調を万全に整えます。」と返信。そこからは、まだリハビリも開始されていない中、早く回復しなくてはと、少し動かすだけで痺れる両腕を必死に動かし、一人ベッドの上でリハビリをしていました。努力の甲斐もあり、運動療法士によるリハビリが開始される時には普通に動くようにまで回復し、医師も看護師もびっくりされ、医師からは期待される100％の回復と言われました。これも今となっては津賀さんのお陰と感謝しています。

最後になりますが、NONちゃん倶楽部では、近年、水上自転車、サップ、カヌー、ボート等の水上のツールも増え、益々盛り上がりを見せています。個性豊かな素敵な仲間たちの多い当倶楽部の一員であることを誇りに、これからも遊び心を忘れず関わらせていただきたいと思いますのでどうぞよろしくお願い致します。

今年のテーマ

生き抜く力

NONちゃん倶楽部が取り組んできた『パッチ・アダムス・プロジェクト』のテーマ

●生命の奇跡に無感覚にならないで!!
死を遠ざけるのではなく生を高める
●たとえ身に病があろうとも　心までは病ますまい！
●失ったものを数えるな！残されたものを最大限に生かせ！
●親こそ最良の医師

周りが線を引かないことが挑戦への扉を開ける近道であり、体験による心の震えこそが生き抜く力の原動力となる。今自分にできることを精一杯やる!!これが生きている自分に与えられたテーマだと思って、自分を信じて動く「知覚動考」

NONちゃん倶楽部のイベント空間に渦巻くエネルギーは、正にそんな人の集団だといつも感動することで、歳を重ねながら若返る自分がそこにいます。感謝!!

初めての双海

毎年競輪場で開催していた「サイクルチャレンジin競輪場」が、今年はバンク工事中のため使えないということで、頭に浮かんだのが双海トライアスロン。市政20周年でもある伊予市で初めて企画することにしたのですが、動き始めて色々なトラブルがあり動線の悪さに頭を悩ますことになりました。そこで、不便を楽しむことにしようと腹を括ることにしました。

駐車場と開会式を由並小学校。サイクルチャレンジは双海地域事務所出発で翠小学校折り返しの6キロコース。それに加えて、以前しまなみ国際大会の折に出会った中村さんとのご縁で「トゥクトゥク」に乗ってふれあい広場までの周遊体験を組み入れることにしました。

チャレンジオーシャンは上灘漁業協同組合様のご協力をいただき双海海岸での開催という二交代制で「二刀流で双海を遊び尽くせ!!」を開催するという流れを作り上げました。今回も、不便を楽しみながら多方面のボランティアに支えていただき感謝です!!

皆んなの笑顔の花が満開

今回全盲の佐々木さんは息子さんとのトライアスロンを夢見て、初めて息子パイロットでのサイクリングと、泳ぎにも初チャレンジしてみて、手応えを感じたそうです。陸君は軽井沢から始まった父離れで、父が来れなくなっても平気で高石パイロットとのサイクリングを楽しめました。大翔君のパイロットを真木さん初トライしてくださいました。視覚の吉岡さんが初めて三女との参加で楽しんでくれました。私の願いは家族と共に楽しんでほしい。色々なことが諦めなくても良いんだと家族に知ってほしいと願っています。侑生君と拓也君は海を見るとブレーキが効かず、何回も海にドボンと飛び込んでいたそうです。

技術班に感謝

今治ローイングクラブにある水上自転車の整備に始まり、タンデム自転車の整備点検。その上に、砂浜の移動がスムーズにできるようにと車椅子の改造までしてくださる中で、楓雅君の成長が著しく高機能三輪自転車での走行許容体重（30kg）をはるかオーバーしてきたために、何とかタンデム自転車での走行ができないかと模索してくださるという動きに感動!!海上用の車椅子やリクライニングチェアなどの新設もしてくださいました。

海上グループでは、ツール移送用のトレーラーを新規導入したり、BIGサップの修繕などもしてくださいました。積み下ろしや会場設営エネルギーも半端ない。